

千葉県における古四間取りの成立に関する一考察

千葉県に現存する初期遺構に注目して

A Study on the Establishment of the Koyomadori in Chiba.

Pay attention to the early remains existing in Chiba Prefecture

○大塚凜¹, 重枝豊² 加藤千晶²

*Rin Ohtsuka¹, Yutaka Shigeceda², Chiaki Katou²

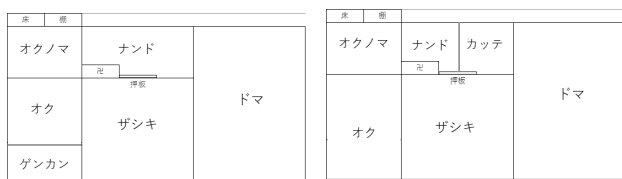
In the house in Chiba, the Koyomadori plan has been established since the second half of the 17th century. The oldest Ishibashi house in Chiba is a Hiroma type when it was built. By looking at the early remains of Chiba, I focused on the establishment of the old four floor plan in Chiba. By looking at the early remains of Chiba, I focused on the establishment of the old four floor plan in Chiba.

1. はじめに

千葉県に現存する近世民家は古四間取りが主流となっている。古四間取り^{註1)}は、関東では千葉県、東京都、埼玉県、茨城県など、広く分布する平面形式である。この平面の特徴は、平面の中心に押板^{註2)}、仏壇をもつザシキと呼ばれる大きな部屋があり、背面に納戸や台所(カッテ)、隣に書院座敷をもつ。

千葉県は、この古四間取りをもつ民家が明治期まで継続して建てられていた地域であり、分棟型民家や曲屋の民家にも古四間取りの平面はみられる。

このように、広間型から古四間取りに展開していく千葉県の民家の初期遺構をみることで、千葉県における古四間取りの成立に注目する。



△ △ △

図1 古四間取り概念図

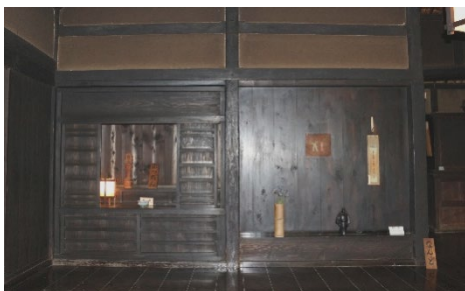


写真1 大沢家(県指定有形文化財) ザシキの仏壇・押板
2018. 11. 08 筆者撮影

2. 千葉県の近世民家の住居形式

千葉県に現存、または資料が残る江戸～明治時代以降に建立された民家の現時点で得られた修理工事

報告書や民家緊急調査報告書、実測のデータ 52 棟(文化財指定 22 棟、無指定 30 棟)の創建時の形式をみると、直屋が最も多く 43 棟、分棟型が 6 棟、曲屋が 2 棟みられ、直屋が 1 棟であった。

また、これら 52 棟のうち 9 割が古四間取りであり、整形四間取りが 2 棟(林家、高木真夫宅)、判断が難しく今後要検討すべき民家が 3 棟(吉田家、額賀兵部宅、石橋俊郎宅)であった。これらを年代順に並べて編年を作成した結果、千葉県においては 17 世紀から古四間取りが主流となっており、整形間取りは幕末頃に登場していることがわかった。

3. 広間型からの展開について

千葉県最古の遺構は寛永(1624～44)頃に建てられた石橋家である。^{図2}石橋家は創建時に広間型であった唯一の例で、後世の改築で北側上屋柱筋等に押板を設けて古四間取りの直屋とし、分棟型から直屋となった。石橋家の広間型から古四間取りに変わる過程をみると、広間三間取りから変化する四間取りの違いは、四間取りは後世に差鴨居を用いて部屋を仕切るが、古四間取りは一間ごとに並ぶ北側の上屋柱筋を省略せず、ここに南向の押板、仏壇等が設けられる点である。

石橋家が広間型から古四間取りに移行した詳細な年代は不明であるが、寛文 4(1664)年に創建された大沢家では、創建時の頃は広間北側に寝室が設けられ、畳の敷かれた部屋が設けられている。17 世紀後半に創建されたとみられている花野井家をもみても、北側に寝室が設けられ、押板、仏壇が設けられていることから、17 世紀後半ころには押板をもつ壁によって古四間取りのザシキの形が成立したといえる。

さらに、花野井家では、石橋家、大沢家ではみられなかった書院座敷の形式がみられる。6 畳、10 畳、4 畳の 3

1 : 日大理工・院(前)・建築, CST., Nihon-U. 2 : 日大理工・教員・建築 Co.,Ltd

室続きになっており、以降の千葉県の家もみると、早い時期から千葉県では主屋下手側を北側の部屋含め書院座敷とする形が出現している。広間三間取りから四間取りに発展する形式では、書院座敷を続き座敷にすると、専用の寝室が無くなるが、古四間取りにおいては続き座敷を設けても専用の寝室は別に成立している。

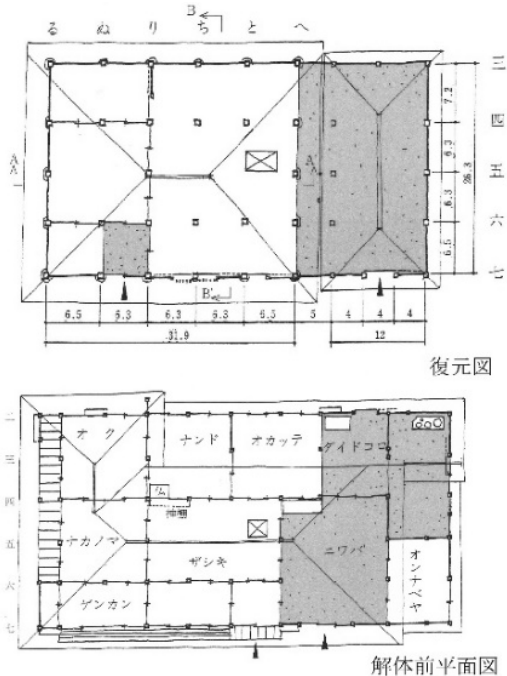


図2 石橋家復元・解体前平面図
(参考文献[4] p. 64より引用)

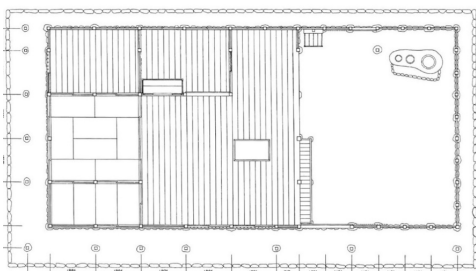


図3 大沢家復元平面図
(参考文献[7]p.41より引用「竣工平面図」)

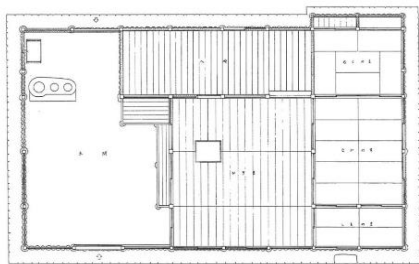


図4 花野井家復元平面図
(参考文献[8]より引用「第1図竣工平面図」)

4. まとめ

千葉県では広間型の民家が17世紀以降、整形四間取りではなく古四間取りとして展開していることが文献、実地調査によってわかった。

さらに、千葉県における古四間取りの成立は、17世紀後半頃には確認でき、畳を入れた部屋とは別に押板、仏壇などを広間に設ける。特に古四間取りは早い時期から続き座敷というものが見られはじめていることがわかった。

広間型から四間取り、古四間取りに発展する形式が関東にはみられるが、千葉県においては古四間取りが成立し、明治時代まで継続して建てられていく間取りとなる。今後は、間取りの成立に注目しながら千葉県においてどのように古四間取りが発展していくのか注目する必要がある。

注釈

注1)参考文献[5]埼玉県の民家 p.11 で定義されている。由来は、埼玉県においては古四間取りをもつ民家が四間取りの民家よりも古い遺構であったためである。

注2)書院造においては床の間の前身とされている。

注3)民家緊急調査報告書の実測寸法、著者による実測データは、実測誤差や経年変化によるゆがみ等も勘案しなければならないため、専門家による検証がおこなわれた修理工事報告書のデータを規準としている。

5. 参考文献

- [1]宮澤智士：「日本列島民家史」，1989，住まいの図書館出版局
- [2]関口欣也ほか：「埼玉県の民家=埼玉県民家緊急調査報告書」，埼玉県教育委員会 1972
- [3]大河直躬ほか：「千葉県の民家1～3 安房・上総・下総の民家」千葉県教育庁文化課，1974
- [4]田中文男：「大文覚書 I 東関東の近世民家架構の変遷」2008，田中文男(自費出版)
- [5]中尾七重：「「九間」を持つ関東平野の民家と古河公方の関連について」，建築史学第72号所収，2019
- [6]青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会 NPO 法人安房文化遺産フォーラム：「青木茂「海の幸」誕生の家小谷家住宅の保存・活用に関する報告書」，特定非営利活動法人安房文化遺産フォーラム，2016
- [7]大河直躬/監修：千葉県指定有形文化財，『旧大沢家住宅移築復元工事調査報告書』，習志野市教育委員会，1982
- [8]普請帳研究会，「重要文化財 花野井家住宅修理工事報告書(増補版)」，千葉県野田市，1991